

市議会・市議会議員について

【市議会議員って何をする人?】

教科書どおりにいえば、予算等議案に対する議決をし、行政を監視する人です。問題はそれをどのように行っているかです。

議員の仕事は、議会での「公の議論」です。

それがなければ、ある事柄が「なぜ」、「どのような経緯」で決まったのか、われわれ市民が知ることが出来ないからです。

これは、執行部との議論はもちろんのこと、議員同士の議論、市民との議論も含まれます。

そして、議会は議決機関と同時に、立法機関ですから「議員立法」が出来るくらいにレベルアップする必要があります。

議員は、市長、執行部に対して良いことはしっかり応援し、駄目なものはしっかり否定しなければいけません。議会に今流行の「忖度」など必要ないのです。そもそも、議院内閣制でもない市議会です。野党があること自体ナンセンス。執行部 vs 議会の関係で十分です。

【議員に必要な資質】

人柄、体力、フットワークの軽さ、情熱…いろいろあるのですが、大切なのは、「先見性と想像力」です。自分の議決した議案が将来どのように生活を変えていくのか、また、将来の生活をよりよいものにするために今何が必要か、先を見据えて考える能力が必要です。

たとえば、今から28年前、私が市議会議員だったときに議会で提案したものです。

1、我孫子市で初めてネット環境の必要性と導入を進める

私が初めて議員になったのは、米国大学院修士課程を終え、帰国した28歳の時（1995年）です。

当時我孫子市で始まった最先端の情報発信サービスはFAXを利用したものでした。アクセス番号に電話をかけると指定した行政情報が送られてくるシステムです。

アメリカではインターネットが広まっている時期に、帰国したばかりの私は啞然としました。今でこそSNSなどネット通信が当たり前の状況ですが、我孫子市で一番最初に、行政や教育現場にネット環境の導入を進めました。

ぜひ、我孫子市議会の議事録をネット検索してください。

私は自分のことを「我孫子市インターネットの父」と呼んでいます。馬鹿でしょ（笑）

2、市民に開かれた議会の実践

今でこそ当たり前になった、採決状況の公表や、動画による議会中継も最初に議論し、実践しました。

「とびら通信」の仲間と議員の採決状況を記録し、毎回折り込みチラシ、私のホームページで公開しておりました。

議会議事録が文字情報しかないのが、画像、動画も使ったほうがよいと提言。議会の一般質問でフリップを持ち込み図面を示しながら議論しました。こういった、当時の行動は、ほかの議員から相当抗議されたものです。

ようやく、時代が追いついてくれたと思っています。



かつべひろふみ略歴

1967年3月生（56歳）

我孫子市立根戸小学校 久寺家中学校

専修大学松戸高校 明治大学法学部 卒業

米国モンテレー国際大学（MIIS）国際政策学修士

1995年 我孫子市議会議員に初当選（28歳）

2007年まで約3期12年勤める

（一社）我孫子青年会議所 OB

現在、実武道会館 支部長 実践空手道3段

介護職員（介護に携わり14年、介護士歴5年）

順風満帆に思えた
私の人生も、落選を
境に地獄の日々に
変わります。

裏面「人生のリベンジ」へ続く



【議会に「公の議論」は存在するか？】



議論は討論ではなく、対話です。

政治はとかく「数の論理」でものごとが決まります。「多数決」があたかも民主的な手段であるかのようにいわれますが、数の論理で言えば、議論をしないで物事を決めるためのシステムでしかありません。

現状では、議案や市政について、議員が執行部に個別の質問をして、あとは、最終日に賛否を問うだけです。それなら、初日に議案を発表し、その日に採決して終われば時間と予算の節約になります。

市民からの陳情、請願について議論するのは委員会の場です。その委員会は、1年365日のうち、年に4回、本会議中に開催され、一度の委員会は数時間のみ。陳情者の意見陳述は5分間だけ。休憩中に多少の意見交換くらいはするでしょうが、市民が議員に対して公の議論を行うことは許されていません。

「公の議論」は、議事録に載ることが大前提であり、いかにしてYES、NOが決まったのか誰もがわかるためのものです。

【さらなる議会改革】

市議会議員が時折揶揄される言葉に「税金泥棒」というのがあります。年間4回議会が開催され、一回の議会は約2週間程度です。1年365日のうち、議会は60日ほどしかありません。なるほど「良い商売」です。かといって、「議会などなくしてしまえばいい！」も暴論です。

要は、議員に「税金泥棒」と呼ばれないだけの仕事をしてもらえばよいのです。

市議会は議員が動かすものではありません。市民の皆さんが議員に直接働きかけて動かしていく場所です。とりあえず、こんなことを実現してみてもはどうでしょう？



1、本会議初日と採決は、週末もしくは休日開催（誰もがネット環境下にあるとは限りません。）

2、委員会における陳情者、請願者との直接対話

（議員だけで判断するのではなく、市民の方の意見をじっくり聞いて判断することも大事です。）

3、休会中の継続審査を本当に開催する（やっているのを見たことはありません。）

4、急を要する陳情については、ネット受付とネットによる回答

（市民は、急ぎの陳情でも議会開催に合わせて数ヶ月待たなければいけないのでしょうか？）

負けてたまるか。人生のリベンジ！

2007年（平成19年）の選挙で落選。40歳で収入ゼロ。経済的困窮から電気、ガス、水道を止められ、家賃滞納で半ば追い出されるように安いアパートに移る。引越し作業、自販機飲料配送作業、コンビニ店員、プール監視員、学習塾時間講師など生きていくためにバイトの掛け持ち。それでも、ぎりぎりの極貧生活。水道局が水を止めに来た際、「すみません。」と申し訳なさそうに作業を開始。私はそれを黙って見つめるだけ。

その時の悔しく情けない気持ちは今でも忘れることはありません。仕事欲しさに、甘い言葉に騙されることもありました。専門学校の校長をして欲しいということで引き受けるも資金難で倒産寸前。教職員の給与未払いなど莫大な借金を背負う寸前で経営者と大喧嘩してやめました。私立高校の留学生担当として仕事をしている中で校長の入管法違反行為が発覚。なぜか私が責任を取られる危険性があり、入管に内部告発。その学校の理事長とこれまた大喧嘩して退職。文字通り地獄のようなどん底生活をしぶとく耐えて16年。コロナ禍をどうにか生き延び、種々返済が完全に終わったわけではありませんが、ようやく生活も安定してきました。今は、私のように、人生に失敗した人間誰もが再チャレンジできる世の中になりたいという気持ちです。

おかげさまで人生の経験知がかなりあがりました。

次回「とびら通信」予告

我孫子の将来を見据えて
いくつかのアイデアを提案致します。

今こそアナログネットワーク？
コミュニティFM局の開設

空気が水源？
空気水の利用

将来、子どもたちは日本だけでは稼げない？
海外でも就職活動できる人材育成

人生のラストステージ。
介護施設はあなたにとって幸せな場所か？
介護現場への補助

大事なパートナーの将来は？
自治体には独自の税金をつくる権利があります。
ペット保険税の導入